

## 第5章 配慮や支援が必要な子どもの就学支援

### ● 幼稚園・保育所、小学校、家庭、地域の連携と役割

教育・保育現場においては、「コミュニケーションをとるのが難しい」「トラブルが多い」「パニックを起こすことが多い」などの子どもに対して、一人ひとりにあった配慮や支援をすることが必要です。

特に、接続期において、幼稚園・保育所で保育者が子どもの特性をしっかりととらえ、小学校の教師と連携をはかりながら小学校へ引き継いでいくことが大切です。

また、家庭や地域の関係機関・団体とも連携しながら、一貫性をもちながら一体的に支援や対応をしていくことが大切です。

#### ■ 幼稚園・保育所、小学校、家庭、地域の関係機関・団体との役割



一人ひとりにあった配慮や支援を、  
さまざまな立場で共有し、対応する。

#### 幼稚園・保育所

- 子どもの気になる様子や行動を具体的に整理する(苦手なことを記録するなど)。
- 個別指導計画などを作成し、一人ひとりにあった対応や支援を検討する。
- 幼稚園・保育所内で配慮や支援が必要な子どもの様子や行動について話しあう機会や研修機会を設ける。
- 必要に応じて専門機関と連携をはかったり、専門家への相談や助言を受けたりする。
- 保護者と子どもの就学について話しあえる機会をもつ。

#### 小学校

- 幼稚園・保育所の子どもの様子を見学することで、就学後の配慮や支援の在り方を検討する。
- 小学校体験入学などで、小学校生活や環境にふれられる機会を充実する。
- 幼稚園・保育所の保育者と就学する子どもの情報交換を行い、円滑な接続ができるようにする。
- 入学前に、保護者と成育歴などを共有し、その後の指導の参考にする。

#### 家庭、地域の関係機関・団体

- 保護者は、成育歴や家庭での子どもの様子などを必要範囲内で保育者や教師に伝える。
- 保護者は、子どもの様子や行動に対する気になる点などについて共通理解・認識を深める。
- 関係機関・団体は、さまざまな情報提供・相談支援について積極的に発信する。
- 関係機関・団体は、必要に応じて専門家による相談支援や研修などを実施する。

## ● 配慮や支援が必要な子どもの特性と対応

配慮や支援が必要な子どもの特性や対応策を以下にまとめました。なお、子どものそれらの特性は「就学前教育・保育実践の手引き」に即した内容としています。

ここで記載するのは一例であり、各幼稚園・保育所、小学校でそれぞれの子ども一人ひとりの特性をしっかりと理解・認識することが大切です。

なお、八尾市内の関係機関や取組みについては、「就学前教育・保育実践の手引き」に記載しており、必要に応じて情報提供や相談、連携をはかることが大切です。

### ■ 配慮や支援が必要な子どもの特性や考えられる対応策の例

行動面で気になる子ども	子どもの特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つのこと集中しすぎて、次のことに移れない。</li> <li>・興味が持続せず、次から次へ移ってしまう。</li> <li>・落ち着きがなく、パニックになることが多い。</li> <li>・偏食や適量以上に食べてしまう。</li> </ul>
	配慮・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続けたい気持ちを尊重し、無理のない範囲で他の遊びなどを取り入れ、興味の幅を広げる。</li> <li>・やりたい遊びなどを一つにきめて、次に移る時は片づけるルールを設ける。</li> <li>・静かな場所や落ちつける時間を設け、わかりやすくゆっくりとした声かけを行う。</li> <li>・極端な偏食がある場合は、味覚異常を疑い、無理な食事指導は行わない。それ以外(見た目など)では、調理を工夫したり、適切な食事量について指導したりする。</li> </ul>
日常動作で気になる子ども	子どもの特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動きがぎこちなく、簡単な体操やリズム運動の模倣ができない。</li> <li>・片づけができなかったり、簡単な工作(切ったり・貼ったり)が著しく困難である。</li> <li>・同年代の子どもに比べて、著しく日常動作(走ったり・跳んだり)が遅い。</li> </ul>
	配慮・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全身を使うさまざまな遊びなどを通して、体を動かすイメージをもたせたり、機会を増やす。</li> <li>・身体知覚を高める遊びを取り入れる。</li> <li>・写真や図を使って片づける場所などをわかりやすく示したり、個別に指導したりする。</li> </ul>
対人関係で気になる子ども	子どもの特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乱暴、友だちとのけんかななどのトラブルが多い。</li> <li>・遊びのルールを理解しつつも、守りながら行動できない。</li> <li>・集団生活・遊びに著しくなじむことができない。</li> <li>・自分勝手な言動が多い。</li> </ul>
	配慮・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険な場合は制止し、子どもの安全を確保する。子どもの言い分をしっかりと聞き、必要に応じて仲立ちをする。</li> <li>・場面に応じてルールを提示したり、再確認する。場合によっては、写真や図を用いてわかりやすく工夫する。</li> <li>・子どもそれぞれがもつ良いところなどを、他の子どもたちと認めあったりできる機会を設ける。</li> <li>・話したい気持ちや行いたい気持ちを受けとめつつも、集団生活や遊びのルールや他の子どもへの思いやりの気持ちをもつことの大切さを伝えていく。</li> </ul>
言葉が気になる子ども	子どもの特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発音が不明瞭、構音要領が未習得である。</li> <li>・きいた通り言い返したり(エコラリア)、大人の言う簡単なことが理解できない。</li> <li>・自分の名前が読めない・かけない。</li> <li>・文字が著しく乱雑である。</li> <li>・学習の定着が著しく遅い。</li> </ul>
	配慮・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすい言葉でゆっくり繰り返して話しかける。</li> <li>・言葉の意味が理解できているか確認しながら会話を進めていく。</li> <li>・習熟度を把握し、反復練習を繰り返し行い、文字や言葉の習得を進める。</li> <li>・規則正しい生活習慣を身につけ、物事への集中力を高めていく。</li> <li>・できたことを認め学習に対する意欲を高める。</li> <li>・ものを描いたりすることで、えんぴつの運び方を経験させる(運筆練習をする)。</li> </ul>

※「就学前教育・保育実践の手引き」における『配慮や支援が必要な子どもの教育・保育』の内容に対して、接続期の内容を一部追記しています。

## ●保護者・保育者・教師の連携に向けて

配慮や支援が必要な子どもに対しては、保護者・保育者・教師がその子どもの特性を把握・共有し、長期的な課題、短期的な課題についてそれぞれの立場で考え、一貫性のある対応策を検討していくことが求められます。

それら取組みを進めていくにあたっては、必要に応じて一人ひとりの教育・保育ニーズに即した個別の指導計画を作成し、充実させていくことが必要です。

その中で、八尾市では幼稚園・保育所、小学校を対象とした「個別の指導計画」の作成のための手引きを作成しています。

ここでは、それら手引きを参考としつつも、特に接続期を意識した指導計画のイメージを掲載しており、他の手引きと同様に参考として活用されればと考えます。

### ■接続期を意識した指導計画の大切にしたい視点

- ① どの幼稚園・保育所、小学校においても、子どもの状況や課題が共通の観点で理解される。
- ② 保護者の意向を把握し、反映する。
- ③ 子どもの良さやできることなども大切にし、示す。
- ④ 接続期として、小学校に引き継ぎたいこと、幼稚園・保育所から受け継いだことを示す。

### ■接続期を意識した指導計画のイメージ

【幼稚園・保育所版】				【小学校版】			
なまえ	男・女	学級	歳児学級	なまえ	男・女	学年・クラス	学年 クラス
作成年月日	年 月 日	作成者		作成年月日	年 月 日	作成者	
子どもの特性				子どもの特性			
長期の目標				長期の目標			
短期の目標				短期の目標			
気になる特性	子どもの状況	配慮・支援	評価・課題	気になる特性	子どもの状況	配慮・支援	評価・課題
行動面				学習面			
日常動作				日常生活			
対人関係				その他			
言葉							
その他							
小学校に引き継ぎたいこと				幼稚園・保育所から受け継ぎたいこと			
保護者の意向				保護者の意向			

# 第6章 幼稚園・保育所、小学校の連携(交流)

子ども同士



大切にしたい視点

自分も相手も好きになろう!

学びを楽しもう!

## 一日体験入学

5年生と一緒に学校探検で施設見学したり、1年生の授業風景を見学したりする。また、5年生と給食交流を行う。

### 幼稚園・保育所のねらい

小学校に見学に行くことで小学校への不安や戸惑いを少しでも軽減し、希望と見通しをもって就学できるようにする。

### 小学校のねらい

自分の学校に自信をもって紹介し、園(所)の子どもに思いやりの気持ちをもつとともにコミュニケーション能力を高める。

### 主な準備ごと・当日の流れなど

準備	小学校と一日体験入学の時期を打ちあわせる。 保護者に案内するとともに、子どもの食べ物アレルギーの把握を行う。 事前に5歳児の名簿を渡しておく(就学する子どもを把握するため)。
10:00	学校説明(担当教師より)。 グループわけをし、5年生と自己紹介をしあったり、学校探検カードをもらったりする。
10:20	20分休みを利用して、5年生と一緒に校庭で遊ぶ。
10:40	1年生の授業見学を行う。
11:35	5年生と学校探検に行く(校長室、職員室、音楽室、図書室、体育館など)。 ⇒各拠点に担当の教師が配置され、探検カードにシールを貼ってくれる。
12:10	5年生と給食交流を行う。 ⇒配膳は5年生がしてくれる。苦手な食材は始めから少なめにしてもらおう。
13:05	帰る準備をし、帰園する。 ⇒5年生に感謝の気持ちを伝える。



発達・学びのポイント

- 友だちと一緒に学校体験をすることで、就学へのイメージを膨らませ安心と期待がもてた。
- 5年生が優しく声をかけたり、トイレに連れて行ってくれたりすることにより、少しずつ5年生に信頼感をもっている子どもの姿があった。
- 1年生の授業を見たり、机に向かって本を読んだりできたことで、就学への意欲が高まり、その後の園生活で学校ごっことして数や文字の学びへとつながった。

反省・評価など

- 授業見学では、途中子どもも参加できるクイズ形式にしてくれたり、一緒に教科書を見せてもらったりすることができ、興味をもって集中して授業を見学できた。
- 学校探検では、小学校の教師も一緒になって参加したことで、教師に対するイメージももてたように感じた。
- 給食体験では、少し食べにくい食材があったため、食べるのに苦戦している姿が見られた。みんなが食べやすい日を園(所)側が選択できて良いと思う。

## 5年生との交流(七夕飾りづくり)

5年生と一緒に七夕飾りをつくり、ふれあい交流を行う。

### 幼稚園・保育所のねらい

さまざまな人とかかわることで、愛される喜びや信頼感をもつ。5年生との交流を通して、1年生になる喜びと期待を感じる。

### 小学校のねらい

園(所)の子どもとの交流を通し、自らの成長を感じる。

### 主な準備ごと・当日の流れなど

準備	<p>保育者と教師の顔あわせを行い、子どもの実態を踏まえ、互いのねらいを明確にしながら、交流内容について具体的に話しあう。</p> <p>準備物・日時・場所の確認をする(次年度以降の資料として残す)。</p> <p>事前に参加者の名簿を渡し、5年生との仲良しペアを決定してもらっておく。</p>
9:10	<p>園(所)の門の前に5年生が迎えにきてくれる。</p> <p>⇒園(所)の子ども1人に対し、5年生2人~4人の仲良しペアをつくる。</p>
9:15	<p>小学校で一緒に七夕の飾り(かいがら、ちょうちん、ロケット、くすだまなど)をつくる。願いごとを一緒にかく。</p> <p>⇒5年生が園(所)の子どもの願いごとをきいてかいてくれる姿や、えんぴつでうすくかいてからなぞれるようにしてくれている姿が見られた。</p>
9:45	<p>片づけをし、5年生と一緒につくったものをもって園(所)の園庭へ移動する。</p>
10:00	<p>つくった飾りをつける。</p>
10:15	<p>リズム『おりひめ・ひこぼし』でふれあって遊ぶ。</p> <p>楽しかったことなど、感じたことを伝えあう。</p>
10:20	<p>解散。</p>



### 発達・学びのポイント

- 初めてかかわるお兄さん・お姉さんに緊張した様子が見られたが、優しくしてもらったことで、笑顔がたくさん見られるようになり、「また一緒に遊びたい」という小学校への期待にもつながった。
- 言葉の数は少なかったかもしれないが、おんぶやだっこなど、全身で甘えている姿が印象的だった。
- 教師からも「普段は見られない5年生の姿が見られてよかった」との感想があった。

### 反省・評価など

- 打ちあわせを綿密に行い、今年の子どもの実態にあわせたねらいをもち、伝えあうことで、互いにねらいの達成に向けて取り組むことができた交流となった。
- 最後にふれあいリズム遊びを取り入れたことで、恥ずかしい気持ちもなくなり、みんなでスキンシップを楽しめた。
- 資料として残すことが次回につながる。
- 休み時間に一緒に遊ぶなど、自然なかかわりもできたらよかった。

# 一緒に遊ぼう！

小学校の20分休憩時に、園庭で小学生と園(所)の子どもと一緒に遊ぶ。

## 幼稚園・保育所のねらい

短い時間でも小学生と交流することにより、小学生への親しみや小学校生活への期待を高める。

## 小学校のねらい

園(所)の子どもに対して思いやりの気持ちを持ち、遊びを教えるなどを通して、コミュニケーション能力を高める。

### 主な準備ごと・当日の流れなど

準備	5年生の担任と保育者で、事前の日程や内容などの打ちあわせをする。 20分休憩を利用して園(所)の子どもと5年生の各クラスが交流できるようにする。 園(所)の子どもには、事前にどの組の5年生と一緒に遊ぶかを知らせる。
5年生を迎える	20分休憩時に5年生の1クラスが園(所)にくる。 園(所)の子どもは5年生を迎える。
あいさつをする	5年生の1クラスと年長児の1クラスが向かいあってあいさつをする。
一緒に遊ぶ	園庭の砂場、遊具、竹馬、サッカーボール、フープ、縄跳び、鬼ごっこなどで一緒に遊ぶ。時間は短いですが、5年生と園(所)の子どもがよりかかわれるように事前に環境を用意する。
あいさつをする	20分休憩が終わるので、向かいあって「楽しかったね」「ありがとう」など、言葉を交わしてあいさつをする。
5年生を送る	一緒に手をつないで小学校の下足場まで送る。 下足場でそれぞれが最後のあいさつをして、わかれる。
園内で振り返る	クラスで5年生と一緒に遊んで楽しかったことを話しあう。

20分間の短い休憩時間も交流できる機会としてとらえた。



### 発達・学びのポイント

- 事前に知らせたことで、5年生と遊ぶことに期待をもってかかわることができた。
- 一緒に遊ぶ中で優しさを感じたり、思いを伝えたりして、親しんでかかわっていた。

### 反省・評価など

- 以前にも一緒に遊んだが、個人差もあり自分の好きな遊びに没頭している子どももいたので、教師も一緒に遊びながら5年生とかかわるきっかけをたくさんつくり、支援していく。

## 公開授業・保育への参加

地域交流会として、幼稚園・保育所、小学校の保育者や教師が公開授業・保育見学を行い、教育・保育内容を共有する。また、課題別分科会で意見交換することで、今後の幼保小が連携した教育・保育実践のあり方について検討する。

ねらい

地域で育てるという意識を保育者・教師がもつことで、子どもたちの育ちが見える。また、保育者・教師同士が意見交換する場を大切にすることで、共通理解ができ、幼保小でのつながりができる。

### 準備

- 「校区交流会」担当者が集まり、その年度の交流の持ち方（公開授業・保育の担当校園、分科会内容）や実施日について話しあう。
- 公開授業・公開保育の感想や、子どもたちの実態を話しあう「分科会」を立ちあげる。
- 事前に指導案を作成し、全員に配布する。



### 公開授業・保育

- あらかじめ目を通していた「指導案」をもって、授業の様子を見学してまわる。

ゆっくりとした時間が取れない中での交流会になってしまいがちなので、全教職員があらかじめ意識をもって参加することが大切になる。

### 分科会

- 分科会には、幼稚園・保育所、小学校がわかれて参加するようにする。
- 「生活指導」「特別支援教育」「進路指導」「事務」の分科会に参加する。
- 司会・記録もそれぞれの校種間の担当で分担する。

それぞれの発達段階での成長や就学までにつけておきたい力を双方向から意見交換することで、新しく気づく部分や活動内容をアピールできる部分があり、大切なつながりの場になっている。

### まとめ

- 参加者から分科会の意見と感想文を集め、冊子にしてまとめる。
- それぞれ話しあわれたことを、共通理解できるようにする。

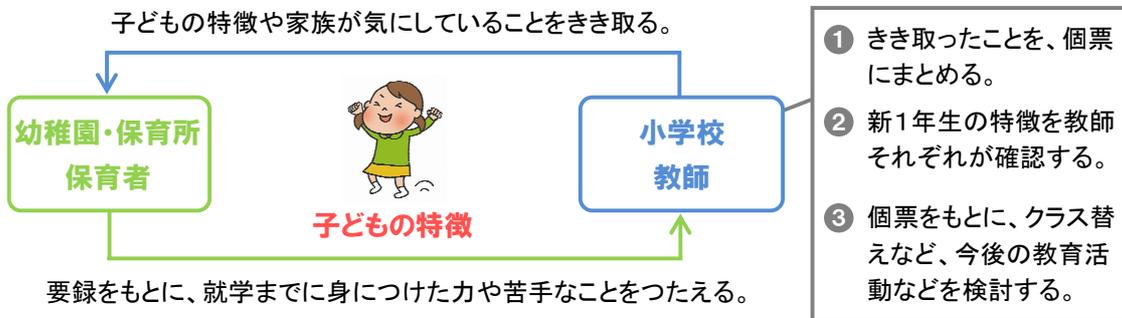
やったことで満足するのではなく、共有した意見を、その後の子どもたちへのかかわりに活かすことが大切になってくる。

## 入学する子どもの引き継ぎ

入学前の新1年生の実態把握や配慮を要する子どもについての意見交流を行い、クラス編成時などの参考にする。また、1学期終了時には、保育者が小学校へ行き、1学期終了時点での子どもの様子を見る。

ねらい

小学校の教師が、入学前の新1年生についてあらかじめ把握することで、入学後に一人ひとりの特性に応じた適切な指導につなげる。入学前の引き継ぎ時と1学期終了時での子どもの様子をかんがみ、長いスパンで子どもの成長を見守る。



### 配慮や支援が必要な子どもは、

教室の環境づくりが大切であり、保育者と情報交換を密にして一緒に考えてもらいながら、子どもにあった支援を行うことが大切。

### 個人情報取り扱いになるため、

慎重に行う必要がある。入学してからも経過を見て、また保育者に見学をしてもらいながら意見を交流することも大切。

### 入学後も、子どもの様子を共有することが大切です！

入学する時の子どもの引き継ぎ以外にも、その子どもが小学校入学後にどのように成長しているかや何が課題として残っているかを保育者と教師で共有することで、互いの教育・保育実践を見直すきっかけになります。

保育者の感想

園(所)では緊張のしすぎで当番の時に泣いていた子どもが、日直や係活動に取り組んでいることなど、子どもの成長を知れたことが良かった。

教師の感想

保育者が小学校への入学前に、給食のことや45分座っていること、ひらがな学習について、とても心配していることがわかった。

## 第7章 保護者支援(連携)・保護者啓発

### ●保護者支援(連携)・保護者啓発の重要性

平成24年度に実施した「就学前教育・保育実践の手引き」の作成にかかるアンケート調査では、小学校入学に際して、不安や心配がある保護者が8割以上という結果になっています。また、その内容については、「登下校」と「友だちとの関係」が約8割となっています。その他、「勉強」「授業への集中度」「自分の意見の発表・発言」などに関しても不安や心配を感じている保護者が多く、人間関係や学習面、安全面などさまざまな事柄に不安や心配を感じていることがうかがえます。



小学校入学により、子どもの生活環境や教育課程などが大きく変化する中で、特に接続期において、幼稚園・保育所では就学に向けた不安や心配、小学校では新しい学校での生活に対する不安や心配など、それぞれの立場で子どもや保護者の状況を把握・共有していくことが求められます。そして、それら多岐にわたる保護者の不安や心配の解消に向けたさまざまな取組みを進めていくことで、子どもと保護者の双方にとって円滑な接続をはかっていくことが必要です。

### ●保護者支援(連携)・保護者啓発に向けて

保護者支援(連携)・保護者啓発に向けて、幼稚園・保育所、小学校において大切にしたい視点を以下にまとめました。

**1**  
**子どもの様子や教育・保育内容の共有**  
園(所)・学校での子どもの様子や教育・保育内容をきめ細やかに保護者に伝えることで、子どもの発達や学びを共有する。

**2**  
**ふれあい・話しあいの場づくり**  
保護者と子どもに関する不安や心配について十分に話しあえる機会や、保護者同士がふれあえる機会づくり。

**3**  
**子どもと一緒に楽しむ、育つ**  
子どもから園(所)・学校での出来事などをきき、楽しみを共有する。家庭と一緒に子どもの基本的な生活習慣を身につける。



## ● 具体的な取組み例

保護者支援（連携）・保護者啓発について、八尾市の幼稚園・保育所、小学校で行われている事例を交えながら具体的な取組み例を以下にまとめました。

なお、幼稚園・保育所と小学校で具体的内容をわけていますが、内容によってはどちらでも活用できるものもあります。

### 1 子どもの様子や教育・保育内容の共有

#### 幼稚園・保育所

- 「クラスだより」などで、日頃の子どもの様子や活動した内容などを伝え安心してもらおう。
- 小学校の教師から保護者向けに、小学校での生活に関する手紙を定期的に送付してもらおう。
- 幼稚園・保育所と小学校がビデオレターを送りあい、就学への期待感を高めたりする。
- 小学校の情報をわかりやすく伝え、安心して就学に期待がもてるようにする。
- 小学校生活に関する情報誌・ハンドブックなどを作成、配布する。
- 子どもの成長や良いところを伝えて、子育て・教育の思いを共有する。
- 配慮や支援が必要な子どもについては、指導計画の作成・共有や、関係機関の情報提供などを行い、一人ひとりにあった対応に努める。
- 就学説明会を行い、就学に向けた情報提供を行う。
- 連絡事項を連絡帳にもかくとともに、子どもにも伝え、子どもを通して保護者にきいてもらう。
- 小学校との引き継ぎのポイントを話しあい、子どもが円滑に小学校生活をスタートできる内容にしていく。
- 保育参観に小学校の教師に見学にきてもらう。



特に接続期においては、園（所）内での活動がどのように小学校につながるかを伝えることが大切です。

例：時計を見て行動する  
→授業に間にあう



子どもたちは、園（所）・学校と保護者をつなぐ一役を担っています。子どもをつなげる力を高めることにもつながります。

#### 小学校

- 不安や悩みを電話や文章（連絡帳など）で伝えてもらうようにする。
- 連絡帳に気になること、わからないことを書いてもらう。
- 保護者の給食体験を行い、保護者にも給食の内容や様子について知ってもらう。
- 学習に遅れそうな子どもの保護者には連絡をして、家庭での宿題の仕方や苦手なことを伝えたりしながら協力してもらう。
- 「学級だより」などで、クラスの様子を伝える（時間割、学習内容を細かく記載する）。
- 入学後の実態アンケートを行う。

## 2 ふれあい・話しあいの場づくり

### 幼稚園・保育所

- 個人懇談会やグループ懇談会で、子どもの様子を共有したり、保護者の不安を把握する。
- 懇談会などで保護者同士がゆっくり話し、悩みなどを話せる機会をもつ。
- 話をする機会を設け、信頼関係を深めていく。
- 小学校の教師に小学校生活などの話をしに来てもらう。



保護者の不安や悩み、教育・保育ニーズは一人ひとり異なっていることを意識し、保護者によりそっていくことが大切です。

### 小学校

- 家庭訪問でゆっくりと話をできる時間を多くとる。
- 地域懇談会や小学校で、幼稚園・保育所、小学校、中学校、高校が集まって情報交換をする。
- 学級懇談会で教師とだけでなく、他の保護者間で話す機会をつくり、先輩保護者からアドバイスをしてもらう。
- 保護者同士が交流できる、話せる機会を設ける。



保育者・教師だけでなく、保護者同士のふれあいや話しあいにより、不安や心配が解消されることもあります。

## 3 子どもと一緒に楽しむ、育つ

### 幼稚園・保育所

- 子どもの一日の話をきいてあげる時間をもってもらおう。
- 時間割や準備の確認を一緒にしてもらおう。
- 宿題などを一緒にみてもらおう。
- 時間や文字など意識するような声かけをしてもらい生活を進めてもらおう。
- 基本的な生活習慣を確認し、家庭とともに定着していくようにする。
- 自分の荷物は自分でもって登降園（所）できたり、登園（所）時間を自分で守って行動できるようにしてもらおう。
- 就学に向けて、幼稚園・保育所と家庭で頑張っていきたいことを伝える。

### 小学校

- 学校へ行く準備を毎日一緒にする。
- 保健だよりで健康について意識してもらおう。
- 忘れ物がないかの最終チェックは保護者がするように啓発する。
- 自分のことは自分でする習慣がつくように啓発する。
- 学校教育や家庭学習に積極的にかかわってもらえるようにする。
- 1学期のうちに「宿題をきちんとやる」「次の日の準備をして忘れ物をしない」ことがあたりまえにできるように声かけをする。



学校生活の準備を一緒にするなど、家庭で子どもと過ごす時間を多くとることで、子どもと一緒に学校生活への期待や楽しさを感じることが大切です。また、家庭での子どもの生活を正しくすることは、保護者の成長にもつながります。